

II

世界史

問題は、次のページから始まり、I、II、III、IVの4題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、それぞれ答案紙の所定の欄に書きなさい。

世界史 問題 I

次の文章をよく読んで、下記の問題に答えなさい。

砂漠や山岳などを含みつつステップ帯、オアシス帯が広がっている乾燥ユーラシアでは、移動を繰り返す遊牧民、隊商、軍人などが、点在するオアシス諸都市を結びつけていた。そうしたいわば乾燥移動民地帯が中国では長城を越えて華北まで、南アジアではヒンドークシュ山脈を越えてデカン地方にまで伸びている。そのため、古来これらの地域は遊牧勢力の侵攻を恒常的に受けてきた。

その中でも 10～14 世紀は、トルコ系やモンゴル系などによる定住農耕地帯への展開が際立った時代である。東アジアでは が燕雲十六州を手に入れ、その後 の影響を受けた金が華北一帯を支配下に入れた。西アジアでは 11 世紀に がバグダード、さらに東地中海へとその領域を拡げ、十字軍遠征のきっかけを作ることになった。いずれも乾燥移動民地帯に拠点^①を置きながら定住農耕地帯をも支配下に入れ、前者の騎馬軍事力および交易ネットワークと後者の経済力および軍事・土木技術力とを結びつけて、広大な領域の帝国を形成した。その動きはのちにモンゴル帝国によるユーラシアの統合へと展開していく。

南アジアでも同様の動きが見られ、11 世紀前半にトルコ系の がアフガニスタン方面から定住農耕地帯のインダス川上中流域を支配下に入れ、さらに 12 世紀末には同じくアフガニスタンを拠点としたゴール朝がガンジス川流域をも支配下に入れていった。そしてそのインド方面軍司令官がスルタンを名乗ることで、13 世紀初頭にデリーにスルタン国家が成立する。以降北インド、さらにはデカン地方がイスラーム国家の支配^②を受けるようになっていく。

このプロセスは通常、南アジアのイスラーム化として説明されるが、このように同時代の他の地域の状況と並べてみると、遊牧勢力による乾燥移動民地帯と定住農耕地帯にまたがる国家の建設、さらには後者への定着の過程として理解する道を開く。その過程で、インドで軍馬の重要性が飛躍的に高まった。とりわけ騎馬軍が主力ではなかったデカン以南では大きな変化を受けることになった。デリー・スルタン朝の侵攻を受ける中で騎馬軍が主力として編成され、ヒンドゥー王国でも数多くのトルコ系の^③

軍人が雇われるようになる。しかし、デカン以南は元来、大型馬の飼育に不適當な氣候であったので、恒常的に西アジアとの交易で軍馬をまかなう必要があった。それは同時にモンゴル帝国時代のインド洋交易の活発化をも背景にしていた。

この時代に定住農耕地帯を支配した遊牧勢力は、 などに見られるように、城郭都市建設や文書行政など定住農耕地帯の統治手法をすでに一定程度身につけていた④。そのため、必ずしも定住農耕地帯の文化に完全に同化することなく、元朝における漢人官僚の軽視と色目人の重用にも見られるように、逆に自分たちの政治文化を持ち込む傾向さえあった。

南アジアでも同様であった。グプタ朝の衰退の一因ともされる をはじめ、中央アジア方面から侵入した遊牧勢力のうち、支配者としてインドに定着した者はいずれもサンスクリット文化を受容して統治していた。しかしこの時代のトルコ系遊牧勢力はサンスクリット文化を受け入れない初めての外来支配者であった。彼らは イクター制やマムルークの利用、イスラーム法など、基本的に西アジア・中央アジア⑤ 伝来の統治システム・政治文化⑥で北インドを統治したのである。

こうした乾燥移動民地帯の政治勢力による帝国形成の動きは、その後もそれぞれの地域の定住社会に適應しつつ継続され、16ないし17世紀にはオスマン帝国やサファヴィー朝、清朝など、各地により洗練された巨大帝国を完成させる。南アジアではそれがムガル帝国であった。外来のムスリム勢力にとって異教徒がマジョリティであるインド統治は決して容易ではなかったが、ムガル帝国はインド社会に適應する中で、⑦ 南アジア史上最も安定した帝国統治を実現したと言われている。

問 1 文中の ～ を埋めなさい。

問 2 下線部①について、 は両地域をいかに統治したか、50字以内で簡潔に説明しなさい。

問 3 下線部②について、南アジア以外も含め、一般に近代以前のイスラーム国家では、異教徒はどのような扱いを受けたか。50字以内で簡潔に説明しなさい。

問 4 下線部③について、14～16世紀にデカン南部・南インドを支配したこの「ヒンドゥー王国」の名を答えなさい。

問 5 下線部④について、 が作った文字は何か。

問 6 デリー・スルタン朝時代の南アジア社会の状況として正しいものを以下の(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 歴代のスルタンによって、ヒンドゥー教徒の多くが改宗を迫られた。

(イ) スルタン国家の支配下では、ヒンドゥー教徒は基本的に保護の対象であった。

(ウ) ジズヤを課せられてヒンドゥー教が抑圧される代わりに、北インドで仏教が再び隆盛を迎えた。

(エ) デリー・スルタン朝では西アジアの影響を受けて、イエニチェリ制が押し進められた。

問 7 下線部⑤について、西アジアで施行されていたイクター制とはどのような制度か、簡潔に説明しなさい。

問 8 下線部⑥と関連して、デリー・スルタン朝およびムガル帝国の公用語となった言語は何か。

問 9 下線部⑦について、ムガル帝国が多くのヒンドゥー教徒を抱えるインドを安定的に統治できた理由について、どのようなことが考えられるか。100字以内で答えなさい。

世界史 問題Ⅱ

次の文章をよく読んで、下記の問題に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(金井雄一他編『世界経済の歴史[第2版]グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、
2020年、70-71ページ、一部改)

問 1 下線部①に関連して、この人物は16世紀前半に、贖宥状の販売などキリスト教会のやり方を批判したマルティン・ルターと対立した。キリストの福音を信じるのみと説くルターらは新教徒(プロテスタント)と呼ばれ、旧来のカトリックとの間の争いは戦争にまで発展した。この両者の対立を融和する目的で1555年になされた決定を何というか、答えなさい。

問 2 空欄(②)に入る国王は誰か, 答えなさい。

問 3 下線部③に関連して, スペインは利権を得たこれらの地域を經由してさかんに交易をおこなっていたが, どのような交易をおこなっていたかを簡潔に説明しなさい。

問 4 下線部④に関連して, 神聖ローマ皇帝不在の「大空位時代」を経て, 14 世紀に皇帝選挙の手続きを定めた法令を何というか。またその法令を発布したのは誰か。それぞれ答えなさい。

問 5 下線部⑤に関連して, オスマン帝国は 16 世紀前半に, (a)ヨーロッパの内陸にまで侵攻して大きな脅威を与え, (b)海戦に勝利して地中海の制海権を手中にしている。(a), (b)の出来事を何というか, それぞれ答えなさい。

問 6 下線部⑥に関連して, 16 世紀後半に生じ, スペイン側がオスマン帝国を下したこの海戦を何というか。またこの海戦で負傷し, のちに社会風刺に富む『ドン=キホーテ』を世に出した作家は誰か, それぞれ答えなさい。

問 7 下線部⑦に関連して, スペインの支配下にとどまった南部 10 州とは異なり, 北部 7 州は同盟を結んで抵抗をつづけた。この同盟を何というか, 答えなさい。

問 8 下線部⑧に関連して, 派遣された艦隊は何と呼ばれたか, 答えなさい。

問 9 下線部⑨に関連して, この戦争はオーストリアがある地域でカトリックを強制することで始まったが, ある地域とはどこか, 答えなさい。またこの戦争の特徴を簡潔に説明しなさい。

問10 下線部⑩に関連して、オランダの独立は問9の戦争の講和条約によって正式に認められた。この条約を何というか、答えなさい。また以下の(ア)~(エ)のうち、この条約によって定められた内容に合致しないものを1つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) スイスの独立が正式に認められた。
- (イ) スウェーデンがデンマークを獲得した。
- (ウ) 神聖ローマ帝国では、諸邦がほぼ完全な主権を認められた。
- (エ) フランスがアルザスとロレーヌの一部を獲得した。

世界史 問題Ⅲ

次のA～Fの文章は、アメリカ合衆国の歴史にかかわる史料の抜粋である。よく読んで下記の問題に答えなさい。

- A 強調しなければならないのは、非暴力的抵抗は臆病者のための方法ではないということである。非暴力的抵抗は抵抗である。もしある人が恐れからという理由で、あるいは単に暴力的道具に欠けるからという理由でこの方法を用いるのだとしたら、それは真に非暴力ということにはならない。
- B 諸外国は、われわれに敵対的な干渉の精神をもって、われわれの政策に横やりを入れ、われわれの勢力を妨害し、われわれの広大さに制限をつけ、そして年々増加する何百万人ものわが国民の自由な発展のために神が割り当てたもうたこの大陸をおおって拡大していくという、われわれの明白な天命の達成をはばむという公然たる目的のために、われわれとこの問題の適正な当事者との間にむりやり割り込もうと企てたのである。
- C 明敏な^①フランス政府は、米仏両国の平和と友好と利益を最もよく永久的に増進するような寛大な協定が、両国にとっていかに重要であるかを正確な洞察力をもって見抜きました。そしてフランスが取り戻していた^②全ルイジアナの財産と主権は、去る4月30日付の公文書によって、一定の条件にもとづいて合衆国へ移譲されたのであります。
- D 合衆国に対して反乱の状態にある州、もしくは州の一部が反乱状態にあると見なされる地域で、奴隷として所有されているすべての人びとはその日以降、永久に自由を与えられる。合衆国陸海軍を統轄する合衆国政府は、それらの人びとの自由を承認し、かつ保護するであろう。
- E われわれ……は、数億人の国民を代表して会談し、日本に戦争を終結させる機会

を与えることに同意した。……われわれは、日本政府にいまやすべての日本軍の無条件降伏を宣言し、その誠実な履行を適切かつ十分に確証できるようにすることを要求する。

F 中国における現在の危機的状況に際し、現状がこれを許すかぎり、合衆国政府の態度を明示することが適切と考えられる。われわれは、1857年にわが国が開始した政策、すなわち中国国民との平和、合法的通商の促進および、治外法権条約の諸権利と国際法のもとで保証されたあらゆる手段によって、わが国の市民の生命と財産を守る政策を固持する。

(大下尚一他編『史料が語るアメリカ』(1989年)所収、一部改)

問 1 A～Fの史料は、それぞれ次の1～6のどれに当たるか、番号で答えなさい。

- 1 ジョン・ヘイの回状電報
- 2 キング牧師『自由への歩み』
- 3 リンカン大統領の奴隷解放宣言
- 4 ジェファソン大統領の教書
- 5 ジョン・オサリヴァン「併合論」
- 6 ポツダム宣言

問 2 A～Fの史料を年代順に並べたとき、次の(①)～(⑤)に入る史料は何か、答えなさい。

(①)⇒ B ⇒(②)⇒(③)⇒(④)⇒(⑤)

問 3 史料Aの下線部に関して、この考え方に影響を与えたインド人の名を答えなさい。

問 4 史料Bが主張した論点などの帰結として、すぐ後に生じた戦争は何か、答えなさい。

問 5 史料Cの下線部に関して、次の問いに答えなさい。

- (1) 下線部①に関して、この時、統治していた人物は誰か。
- (2) 下線部②に関して、どの国から「取り戻していた」のか。

問 6 史料Dに関わる戦争の終結後、南部で普及した小作人制度について簡潔に説明しなさい。

問 7 史料Eの下線部に関して、この史料の発せられた7月の時点で、この「われわれ」に含まれない国はどれか、以下から1つ答えなさい。

アメリカ合衆国、イギリス、ソヴィエト連邦、中華民国

問 8 史料Fの下線部が具体的に示しているのは義和団事件だが、その義和団のローガンは何か、答えなさい。

世界史 問題IV

近代以前の中国社会の特徴の一つに、文学者・思想家などを含む文化人のほとんどが王朝に仕える官僚でもあったことがあげられるが、そのような状況はどのように生み出されたと考えられるか。以下の語句をすべて用いて、450字以内で述べなさい。
(語句の順序は自由に変えてよい)

科挙

文治主義

郷紳

郷挙里選

形勢戸

士大夫

九品中正